

ジェンダー研究所

2020年度事業報告書によせて

グローバル女性リーダー育成研究機構長／理事・副学長 佐々木 泰子

昨年来、新型コロナウイルス感染症が私たちの生活の隅々に影響をおよぼしています。大学という高等教育機関も例外ではなく、2020年度は困難の多い年となりました。感染対策として大学閉鎖措置が取られ、新年度授業の開始を遅らせてオンライン授業を実施する運びとなりました。ジェンダー研究所の事業についても、研究プロジェクトについてはフィールドワーク調査の機会が失われ、海外からの研究者招聘や学生の海外研修の実施は不可能になりました。早期の状況改善への期待を抱きながら1年間を過ごしましたが、大学の状況がコロナ禍以前に戻るのいつになるかは、まだ見通せない状態です。

そうした中ではありますが、ジェンダー研究所では、前向きに研究活動や国際交流を継続する姿勢を示し、いち早くZoomウェビナーの導入を決定し、7月から国内外の各地をつないでのセミナーや国際シンポジウムの実施を進めてきました。当初、オンライン開催は非常時の代替手段と理解されていたところがありますが、会場への移動を必要としないことから、海外からのゲストスピーカーの登壇も比較的容易であり、聴衆の数も集会型の開催よりも多くなる傾向がみられるなど、オンライン型ならではの成果があることもわかってきました。国際的な研究拠点としての活動を主眼とするジェンダー研究所の活動が、コロナ禍という状況下でも、こうした利点を活かして広がっていくことを期待しています。パンデミックは、世界のジェンダー課題を改めて浮き彫りにしたと言えます。ジェンダー研究所が精力的に進めてきたグローバルな視点からのジェンダー研究は、今後ますます重要視されるでしょう。

私は、2019～2020年度、グローバル女性リーダー育成研究機構長として、ジェンダー研究所事業に携わってまいりました。2021年度からはお茶の水女子大学長として、本学のミッションの一翼を担うジェンダー研究所の事業に関わってまいります。また、2015～2019年度にジェンダー研究所長を務められた石井クンツ昌子本学名誉教授が、同機構長に就任されますので、機構が進める国際的に活躍する女性リーダー育成のための国際的教育研究拠点形成活動にも、ますます拍車がかかることと思います。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ジェンダー研究所2020年度の活動を振り返って

ジェンダー研究所長 戸谷 陽子

新型コロナウイルス感染症による未曾有のパンデミックの影響を受けた2020年度、ジェンダー研究所も例外ではなく、その活動は大きく制限されることとなりました。しかしながら、所長、専任教員、研究員、研究系スタッフ、事務系スタッフら、研究所所属メンバー全員が、研究所の各種プロジェクトを安全に継続し、かつ最大限の成果を得るために、研究所の環境や勤務形態を整え、努力を重ねました。毎年大きな成果を上げてきた特別招聘教授プロジェクトをはじめ、海外との実際に行き来を含む研究交流は断念せざるを得ませんでした。何よりも、結果としてヴァーチャルな領域で海外ネットワークを一段と強化・拡大し、新たな成果を上げることができたことをうれしく思います。2020年度も、研究プロジェクト推進や国際シンポジウム等の開催に積極的に取り組み、成果を得ましたことをここにご報告いたします。

海外との実際に行き来ができない中で、ぎりぎりまで計画を進めていた特別招聘教授プロジェクトは断念しましたが、これまで当研究所が推進してきた国際シンポジウムやセミナーはすべてオンラインに移行して実現することができました。中でも、進行中の国際共同研究プロジェクトを中断することなく、ノルウェー科学技術大学（NTNU）、タイのアジア工科大学院大学（AIT）とのオンラインでの国際シンポジウムを実施し、また、IGSセミナーも10件主催と、例年通りの実績を上げ、オンライン移行により参加者数が増加したことも実感しております。

キャンパスが一時閉鎖されたことにより、教育関連事業にも大きな影響がありましたことは誠に憂慮すべき事態でありました。授業はオンラインに对面授業をブレンドして実施し、研究所を訪れる学生対応にも、感染の心配を最小限にするべくじゅうぶん配慮してあためしております。

パンデミックはわたしたちの世界に大きな打撃をもたらしましたが、その中でジェンダーに関する問題が新たに焦点化されたことも事実であります。その意味でも、所属研究者の研究はまったく停滞することなく、(I) 政治・思想とジェンダー、(II) 生殖・身体とジェンダー、(III) 経済・移動とジェンダーの3分野で精力的に活動を続け、成果をあげることができました。また、当研究所の発行する学術研究誌『ジェンダー研究』23号では、「トランスジェンダーが問うてきたこと——身体・人種・アイデンティティ」というテーマで特集を組み、国内外から高い評価を得ております。

申し遅れましたが、わたくしは、石井クンツ昌子前IGS所長（2021年度より、グローバル女性リーダー育成研究機構長）の職を引き継ぎ、パンデミックの混乱の中で、2020年4月1日に着任いたしました。15年ほど前のCOEでの活動以来、しばらくIGSからは遠ざかっておりましたが、ふたたびIGSの活動に加わり、以来大きな使命を得て充実した時間を過ごせることを実感しております。あらためまして、みなさまには、今後ともお茶の水女子大学ジェンダー研究所の発展にご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。